

在籍校名 福智町立方城中学校
職・氏名 教諭 森 百合奈

研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 相手に話し掛けることに不安のある生徒Aが、友達と創作表現を創意工夫することができ
る音楽科学習－安心して活動するための環境設定を通して－

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

(ア) 生徒の実態から

本研究の対象生徒Aは、情緒障がい特別支援学級に在籍する中学校第2学年の生徒である。学力は高く、授業に集中し真面目に取り組むことができる。友達と自分の考えを伝え合う交流活動では、自分から友達に話し掛けることができなかつたり、話しても声が小さく友達に聞こえていなかったりしていた。しかし、教師が話し掛けた際には、受け答えることができる。音楽科の実態としては、合唱など友達と共に取り組む活動では、大きな声で歌おうと意欲的に取り組むことができる。しかし、友達と創作する活動では、自分の考えをもつことができているものの、グループの友達に話し掛けることができず、伝えることができなかつた。特に、交流する人数が増えると、より話し出しづらそうにしていた。また、実態調査でとったアンケートでは、人と話すことや授業の中で話し合う活動に対して「好きだ」と回答した一方で「自分から相手に話すことが少し苦手で、コミュニケーションがあまり取れていない。」「グループでの活動自体は苦ではないがグループの人にしっかり意見が言えるのか不安がある。」と回答した。これらのことから、生徒Aはグループでの活動は好きだが、自分から話して伝えることについて不安をもっていると考ええる。

さらに、WISC-Ⅲでは、指標得点の大きな有意差は見られなかつたが、検査者のSCの所見に、「見通しがもてないと落ち着いて学習できない。」とあることから、流れや手順を提示するなど、見通しをもてるように支援することで、安心して活動に取り組むことができるようになると思われる。また、「モデルを真似して考えていくことを得意としている。」との記述から、例などを提示することも有効であると思われる。

(イ) 試行授業から（題材名「つくろう！ボディパーカッション」）

相手に話し掛けることに不安のある生徒Aに適した支援の方途を探るために、1グループ4人でボディパーカッションを創意工夫したり、創意工夫したことを実際に演奏したりする試行授業を実施した。その中で、交流シートと聴き合う活動の設定について有効性を明らかにした。交流シートは、創意工夫点など自分の考えを書いて伝えたり、友達の考えを可視化したりできるツールとして使い、創意工夫点とその理由を、付箋に書いて整理できるようにした。生徒Aは、創意工夫点とその理由を記述することができたが、記述した内容を話して伝えようとした際、声が小さく相手に聞こえていない

様子であった。このことから、自分の考えを話して伝えるよりも、書いて伝えるようにすると良いのではないかと考えた。そこで、話す代わりに同時双方向的にやりとりする手段としてICTを活用することは、生徒Aが安心して活動するための有効な手立てになると考えた。聴き合う活動では、創作したボディパーカッションを二つのグループで互いに発表し、工夫点や聴いた感想を伝え合う場を設定した。これは聴き手を意識し、創意工夫が伝わるように創作しようとする意欲を高めるためである。生徒Aを含め、学級全体がテーマに沿って創意工夫しながら創作や練習に取り組む姿が見られた。また、授業後のアンケートの「他のグループの演奏を聴き、工夫点やよさを見付けることができましたか。」という問いに対して、生徒Aを含む学級の96.6%が「できた」と回答し、「自分たちが工夫したところに聴いている人が気付いてくれた。」という記述が多数見られた。このことから、聴き合う活動の設定は、テーマを意識して創意工夫しようとする意欲を高める上で有効だと考えた。

(ウ) 音楽科の特性から

音楽づくりについて岡らは「言葉に依拠しない表現手段である音を使って自分を表現する心地良さや相手に認めてもらえる喜びや、相手の表現を受け止めて思いを共有する楽しさを感じることで、音楽の表現幅や人との関係性が豊かになる」¹⁾と述べている。また、学習指導要領解説音楽編には「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションなど音楽科の特質に応じた言語活動を位置付けられるように指導を工夫すること」とある。これらのことから、創作活動を取り扱い、音及び言葉によるコミュニケーションなど音楽科の特質に応じた言語活動を位置付けることで、生徒Aにおいても、友達と互いの考えた表現を伝え合い、認め合いながら一緒に創作活動に取り組み、より良い関係を築くことができるようになると思う。

イ 研究の目的

相手に話し掛けることに不安のある生徒Aが、音楽科学習において、友達と創作表現を創意工夫することができる姿を目指す上で、安心して活動するための環境設定の有効性を明らかにする。

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

(7) 主題について

相手とは、一緒に授業を受ける学級の友達のことである。話し掛けることに不安のあるとは、同じグループの友達と自分の考えを共有したり、授業において設定された目的を達成しようと共に取り組んだりする際、自分から友達に考えを伝えることが難しく、心配している気持ちのことである。創作表現とは、ペアで決めたオリジナルソングの曲想を基にし、試行錯誤した後、実際につくった旋律のことである。創意工夫するとは、テーマから自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、ペアで決めた曲想を表現するために、旋律などの音楽を形づくっている要素の働かせ方をどのようにするのかを試行錯誤することである。

(イ) 副題について

安心して活動するとは、生徒Aが、話しやすいと感じる相手とペアやグループを組んだり、活動内容や交流の手順などの見通しをもてるようにしたりすることで、不安な気持ちを抱かずに友達と自分の考えを伝え合って共有し、ペアで創作したりグループで聴き合ったりできることである。環境設定とは、生徒Aが学習に取り組むやすいよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立てを行ったり、創意工夫しやすい手立てを行ったりすることである。例えば、交流のペアを意図的に組むこと見通しがもてるよう授業や友達と交流する際の流れを提示すること、選択肢や例を提示することなどである。そこで、本研究では生徒Aの目指す姿を次のように設定する。

- 曲想と音楽を形づくっている要素の関係を理解し、自分の考えを友達と共有できる。
- 友達と自分の考えた旋律を伝え合いながら、リズムや構成などの音楽を形づくっている要素を曲想に沿って創意工夫し、オリジナルソングをつくることができる。
- 友達の作品を聴き、音楽を形づくっている要素をどのように創意工夫したのかに気付くことができる。

イ 研究の内容

本研究では、生徒Aが友達と創作表現を創意工夫できるようにすることを旨とする。そのために、生徒Aが、安心して活動するための環境設定を行う。具体的には、まず人間関係について安心できるような手立ての土台として、意図的なペア・グループの編制(①)を行う。意図的なペア・グループの編制とは、生徒Aが考えを伝えようとする際、時間が掛かってもゆ

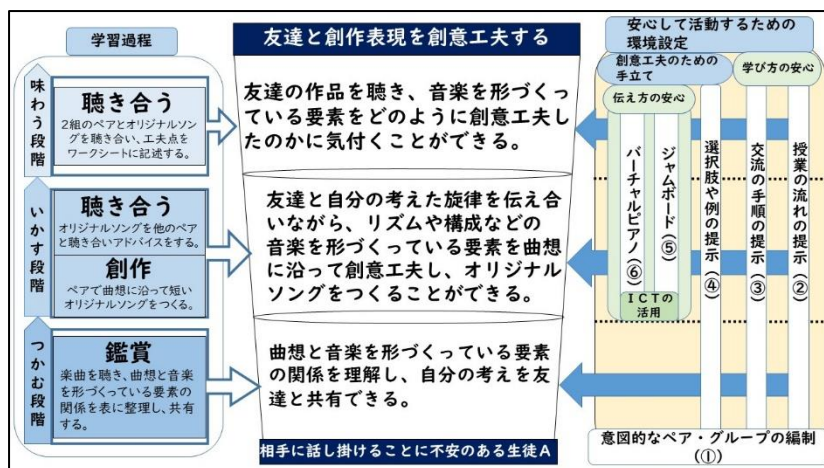


図1 研究構想図

くり待ち、生徒Aがどのようなことを考えているのか気に掛けてくれる友達と、ペアやグループを組むことである。これは、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりの「授業基盤」にあたるものである。次に、つかむ・いかす・味わうの全段階において、学び方の安心のために、授業の流れの提示(②)と交流の手順の提示(③)を行う。授業の流れの提示及び交流の手順の提示とは、生徒Aが活動の見通しをもつことができるよう口頭での説明に加え、板書やワークシートに授業の流れや交流の手順等を示し、いつでも確認できるようにすることである。これらは、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりの「授業運営」にあたるものである。さらに、創意工夫のための手立てとして、選択肢や例の提示(④)を行う。選択肢や例の提示とは、曲想に合うよう創意工夫する際、ヒントをワークシートや板書で提示することである。さらに複数の選択肢を与えることで、ペアで創意工夫を考える際、交流する必然をもたせることができる。いかす段階と味わう段階では、①②③④の手立てに加えジャムボード(⑤)とバーチャルピアノ(⑥)を活用する。これは創意工夫する際、一人一台ずつ手元にあることで、試したいときに音を確認でき、簡単に音が出せるため試行錯誤しやすいことから活用する。学習指導要領解説音楽編には「創作の学習において、自分でつくった作品を自分で演奏して発表することや記譜することに苦手意識をもつ生徒の場合、演奏や記譜に関する部分をコンピュータや教育機器に任せることによって音楽をつくる学習に主体的に取り組むことができるようになることなどが考えられる。」と記述されており、創作の経験の少ない生徒にとっても、ICTを活用し演奏して発表したり記譜を補助したりすることは、創作に対する抵抗感を和らげることから適していると考えられる。また、これらのICTは同時双方向的にやり取りができ、話さなくても自分の考えを伝えることができるため、生徒Aが安心して活動できることから活用する。

(3) 研究の実際

ア 実証授業の題材の目標及び指導計画

題材名		「日本の音階を使ってオリジナルソングをつくろう」		
題材 の 目 標	○ 旋律や音色などの音楽を形づくっている要素について、曲想と関わらせて理解することができる。 【知識】			
	○ 旋律などの音楽を形づくっている要素の働きが生み出す特質や雰囲気をつかみ、友達と旋律を伝え合い、曲想に沿った創作表現を創意工夫することができる。 【思考力・判断力・表現力等】			
	○ 友達と考えを共有し、創意工夫の多様性やよさを感じる。 【学びに向かう力・人間性等】			
題材 指 導 計 画	配時	目標	学習活動	手立て
	つかむ 1	○ 楽曲を聴いて曲想をつかみ、音楽を形づくっている要素と曲想の関係を理解し、それを友達と共有することができる。	○ 構成や特徴が分かる楽曲を聴き、つかんだ曲想を友達と共有する。 ○ つかんだ曲想と、音楽を形づくっている要素との関わりを整理する。	○ 曲想をつかみやすくするため、比較聴取する活動の設定 ○ 曲想と音楽を形づくっている要素を整理できる表の用意
	いかす 2・3・4	○ ペアで決めた曲想に沿って、自分の考えた旋律を伝え合って創意工夫し、短いオリジナルソングを創作することができる。	○ 使用する音階を指定するなど条件に沿った短い曲をペアで創作する。 ○ 二つのペアと作品を互いに聴き合い、よさやアドバイスを伝え合う。	○ 試行錯誤しやすく、伝える補助として使えるジャムボードとバーチャルピアノ
味わう 5	○ 創作したオリジナルソングを他のペアと聴き合い、曲想に沿って創意工夫した点に気付くことができる。	○ 複数のペアで、お互いに創作した作品を聴き合い、気付いた工夫点をワークシートに記述する。	○ 聴くときの視点として、創意工夫の例の提示	

イ 実証授業の実際と考察

手立ての意図的なペア・グループの編制①と授業の流れの提示②は、毎時間行った。

(7) つかむ段階（第1時）

つかむ段階では、鑑賞を行い、楽曲を聴いて曲想をつかみ音楽を形づくっている要素と曲想の関係を理解し、それを友達と共有できることをねらいとした。そのために、音楽を形づくっている要素の働かせ方の違いがつかみやすいよう「白鳥の湖」の中から、同じ旋律で雰囲気

曲想	要素	どうなっている?	から	
静か	弱しがるのは 激しい	が	低い 強い	強い
か強い	弱しがるのは 強弱	が	5強い	から
たし強い	弱しがるのは 強弱	が	5強い	から

資料1 生徒Aが記述した曲想と音楽を形づくっている要素の関係を整理できる表

【どうなっている?の選択肢】

強い 弱い たくさんの種類が使われている
 続いた音が使われている 音がとんでいる
 一つの楽器で演奏されている 低い 高い
 金管楽器が使われている ゆっくりだ 速い
 短調だ 短い音符が多く使われている
 長調だ 長い音符が多く使われている

資料2 ワークシートに示した選択肢

表を用意した(資料1)。さらに、表にある「曲想」の根拠となる、音楽を形づくっている「要素」が「どうなっている?」という項目は、生徒にとって考えることが難しいのではないかと考えワークシートの裏面に、ヒントとして見ることができるとして用意した(④・資料2)。表を整理する場面では、整理の仕方について、まず全体で一緒に考えた。すると生徒Aは、ワークシートの選択肢や、全体で一緒に考えた例を確認し、曲想が「激しい」感じがするのは、音楽を形づくっている要素の「強弱」が「強い」からなど表に整理することができた(資料1)。その後の、整理した表

交流の仕方
 1、右の人から
 (表の左側から順に読む)
 2、メモを取る
 3、交代

資料3 示したペアの交流手順

※
 交流手順を確認する生徒A

資料4 交流手順を確認する生徒A

※
 整理した表を見せながら伝える生徒A

資料5 整理した表を見せながら伝える生徒A

表についてペアの友達と交流する場面では、交流の流れに見通しがもてるよう、ペアで交流する際の手順を提示し(③・資料3)、説明した。すると、生徒Aが示された手順を見ながら説明を聞いて確認する姿が見られた(資料4)。そして、ペアの生徒と整理した表を見せながら読んで伝えることができた(資料5)。また、生徒Aはペアの友達の考えを聞いた後、ワークシートに「なめらかな感じがするのは速度がゆっくりだから」など自分とは違う友達の考えを記述することができた(資料6)。これらのことから、生徒Aは曲想と音楽を形づくっている要素の関係を理解し、それを友達と共有することができたと考える。それは、生徒Aがワークシートの選択肢(④・資料2)を確認し、曲想と音楽を形づくっている要素を整理できる表に記述できたこと(資料1)や、ペアの友達(①)と自分の考えを伝え合う姿(資料5)が見られたことから明らかである。

友達の考え	曲想	要素	どうなっている?	から	
なめらか	なめらか	が	速度 速度	が、 あ、ソ ゆっくり	から

資料6 生徒Aが記述できた友達の考え

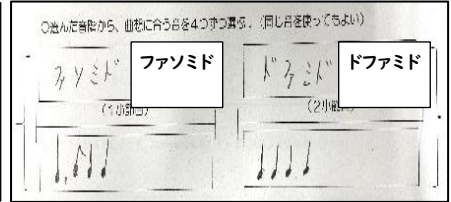
(4) いかす段階（第2～4時）

いかす段階では、創作の後に聴き合う活動を行い、ペアで決めた曲想に沿って自分の考えた旋律を伝え合って創意工夫し、短いオリジナルソングを創作できることをねらいとした。まず第2時では、テーマからイメージを膨らませて曲想を決めるために、ジャムボードを活用した(⑤)。その際、大型テレビで実際に入力したジャムボードの例を映し(④)、使い方を説明した。生徒Aは「秋」というテーマからイメージしたことを、ジャムボードの付箋に入力し、その中から曲想を「落ち着いている感じ」と、ペアの友達と相談して決めることができた。第3時では、ペアで分担し、ジャムボードとバーチャルピアノを活用して(⑤と⑥)、8小節のオリジナルソング創りに取り組んだ。使用する音階は、創作の経験の少ない生徒も簡単に創作することができるよう琉球音階と民謡音階に限定し、創作に使用する音やリズムの選択肢を用意した(④)。すると、生徒Aは選択肢からリズムを選び、曲想に合うように旋律を創作し始めることができた。バーチャルピアノを活用する際、バーチャルピアノの使用方法を全体で一緒に操作をしながら確認した。すると生徒Aは、自分の考えた音をよく聞

こうとイヤホンを使用して試し（資料7）旋律を創作することができた（資料8）。また、ペアの生徒と互いに創作した旋律をどのように組み合わせるか相談する際にも、バーチャルピアノを使い、自分の創作した旋律を演奏して伝えることができた（資料9）。その後、ペアの友

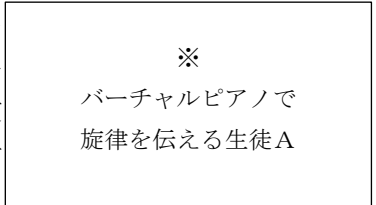


資料7 音を試す姿



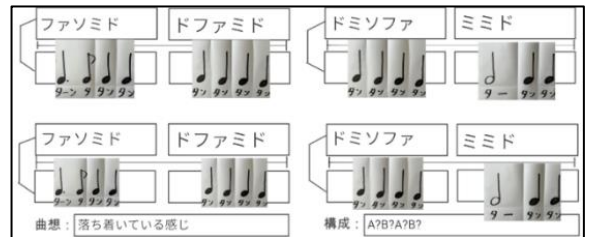
資料8 生徒Aが創作した旋律

達と創作した旋律を組み合わせ、一つの曲にするためにジャムボードを活用した（⑤）。その際、リズムを簡単に入力できるように、ジャムボードのシートにリズムの画像を貼っておいた。すると生徒Aは、ペアの友達とリズムの画像を動かしたり旋律を入力したりしてジャムボードを活用しながら、オリジナルソングを創作することができた（資料10）。さらに、ペアの友達と共に、創作した旋律の音高を試行錯誤する姿がみら

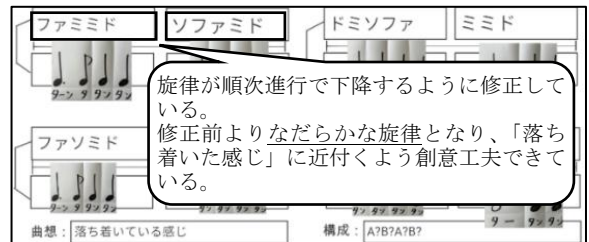


資料9 バーチャルピアノで旋律を伝える生徒A

れた。第4時では、創作したオリジナルソングをより良くするために、他のペアと聴き合い互いにアドバイスをした後、ジャムボードとバーチャルピアノを活用して（⑤と⑥）、創作した旋律を修正する活動を行った。「続く音（順次進行）を増やした方が良い。」というアドバイスを受け、生徒Aはペアの友達と、バーチャルピアノで音を試しながらジャムボードを使って修正に取り組んだ。資料11に示すように、1、2小節目を順次進行にして、徐々に下降するように創意工夫しながら修正することができた。これらのことから生徒Aは、ペアの友達や他のペアの友達との関わりを通して、曲想に合うように創意工夫しながらオリジナルソングをつくることができたと考える。それは、生徒Aが音やリズムの選択肢を活用して（④）旋律をつくり（資料8）、ジャムボードやバーチャルピアノを活用して（⑤と⑥）ペアの友達に自分の考えを伝えたり（資料9）、他のペアからもらったアドバイスを基に曲想に合うように修正したりできた（資料11）ことから明らかである。



資料10 生徒Aとペアが入力したオリジナルソング



資料11 修正した後のオリジナルソング

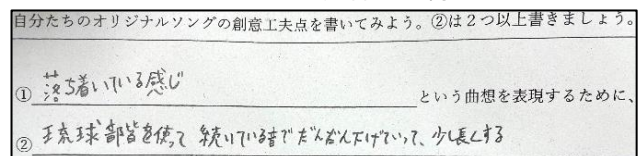
（ウ）味わう段階（第5時）

味わう段階では、創作したオリジナルソングを他のペアと聴き合う活動を設定し、曲想に沿って音楽を形づくっている要素をどのように創意工夫したのか気付くことができることをねらいとした。そのために、まずオリジナルソングの創意工夫点の紹介をペアで考えるようにした。これは、他のペアと聴き合う際自分達のペアがどのような創意工夫をしたのか、事前に考えることとすぐに伝えることができるようにし、他のペアの創意工夫に気付く視点をもつために行った。その際、創意工夫点の例（資料12）を板書やワーク

リズム	・短い音符を多く使っている ・長い音符を多く使っている
旋律	・続く音を多く使っている ・離れている音を多く使っている
音階	・琉球音階を使っている ・民謡音階を使っている
音高	・高い音を使っている ・低い音を使っている
速度	・速い速度で演奏している ・ゆっくりな速度で演奏している

資料12 創意工夫点の例

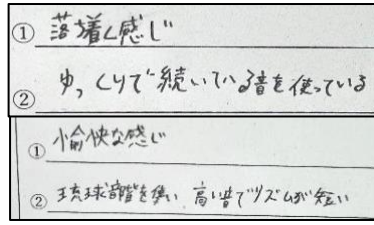
シートに示した（④）。すると生徒Aは、創意工夫点の例を見て自分達の作品の創意工夫点について「琉球音階を使って続いている音でだんだん下げていって（下降するようにして）、少し長くする（長い音符を使用する）。」と記述できた（資料13）。この記述から、生徒Aが自分達のオリジナルソングを修正した際、「落ち着いた感じ」という曲想に近づけるために、旋律を順次進行になるようにして下降する旋律にしようという思いをもっていたと考える。次に、二組のペアと創作したオリジナルソングを聴き合う活動を行った。その



資料13 生徒Aが記述した創意工夫点の紹介

資料13) この記述から、生徒Aが自分達のオリジナルソングを修正した際、「落ち着いた感じ」という曲想に近づけるために、旋律を順次進行になるようにして下降する旋律にしようという思いをもっていたと考える。次に、二組のペアと創作したオリジナルソングを聴き合う活動を行った。その

際、アドバイスを基に修正したかが分かるようにすることや、生徒Aが発表する際、少しでも安心できるよう一組目の交流相手を前時に交流した同様のペアに設定した(①)。すると、生徒Aはグループの友達と時折笑顔を見せながら交流する様子が見られた。また、交流相手の演奏を聴き、創意工夫点を考える際には、ワークシートに提示した創意工夫点の例(資料12)を確認する様子が見られた。気付いた創意工夫点を交流相手に伝える際は、生徒Aと同じペアの友達が伝えた後「一緒。」とだけ答えた。しかし、ワークシートには「①落ち着いた感じ」という曲想を表現するために「②ゆっくりで続いている音を使っている」や「①愉快的な感じ」という曲想を表現するために「②琉球音階を使い、高い音でリズムが短い」など気付いたことを記述することができた(資料14)。このことから、生徒Aが友達の作品を聴き、曲想に沿った表現になるよう創意工夫した点に気付くことができたと考える。それは、生徒Aが創意工夫点の例(④・資料12)を見ながらワークシートに交流したペアの作品の創意工夫点を記述できたこと(資料14)から明らかである。



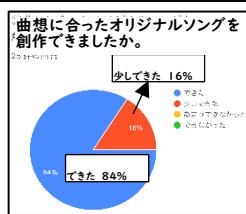
資料14 生徒Aが記述した創意工夫点

(4) 全体考察

生徒Aが曲想と音楽を形づくっている要素の関係を表に記述し、友達と共有できた姿(資料1・5)、曲想に合わせて修正しようと創意工夫できたこと(資料11)、他のペアの創意工夫点に気付くことができたこと(資料14)から生徒Aが、友達と創作表現を創意工夫することができたと考える。また、生徒Aが入力したgoogle formsの振り返り(表1)から、曲想を理解しそれを友達と共有すること、ペアの友達と自分の考えを伝え合い曲想に合わせて創意工夫すること、他のペアの創意工夫に気付くことについて、概ね「できた」と感じていると考える。生徒Aのペアの友達の振り返りには「ペアで創作をしてみてもう良かった。」という項目に「お互い意見を言えたので良かった。」と入力していたことから、生徒Aがペアの友達に意見を伝えることができたと考える。このように、ペアの友達とのやり取りを通して生徒Aは、ペアでの創作について「最初は上手くやれるか少し不安があったが、曲想に合う曲をつくることができて良かったと思った。」と入力できたと考える。このことから、ペアでの活動に安心して取り組み、共に創意工夫をしながらオリジナルソングをつくることができたと感じていることや、曲想を意識して創意工夫していたことが分かる。学級全員が振り返りに「曲想に合ったオリジナルソングを創作できた・少しできた」と回答したことや(資料15)、最後の感想に「普段あまり話したことのない人も相談してつくっていかないといけないので、前よりは親しくなることができたかなと思いました。」とあり、友達との関係性を豊かにして創作表現を創意工夫する姿が全体として見られたと考える。

表1 生徒Aの授業の振り返り

時間	振り返り項目	生徒Aの回答
第1時	・曲想と音楽を形づくっている要素の関係を表に整理できたか。 ・自分の考えをペアの友達に伝えることができたか。	できた 少しできた
第2時	・曲想に合うようにペアの友達と音階を選ぶことができたか。	できた
第3時	・曲想に合わせて音やリズムを選択することができたか。 ・曲想に合う構成をペアと相談して決めることができたか。	できた できた
第4時	・曲想に合わせてオリジナルソングを創作できたか。	できた
第5時	・曲想や構成を決める時、修正をする際に、ペアの友達に自分の考えを伝えることができたか。 ・他のペアが曲想に合わせてどのような創意工夫をしたのか気付くことができたか。	できた 少しできた



資料15 学級全体の振り返り

生徒Aのペアの友達の振り返りには「ペアで創作をしてみてもう良かった。」という項目に「お互い意見を言えたので良かった。」と入力していたことから、生徒Aがペアの友達に意見を伝えることができたと考える。このように、ペアの友達とのやり取りを通して生徒Aは、ペアでの創作について「最初は上手くやれるか少し不安があったが、曲想に合う曲をつくることができて良かったと思った。」と入力できたと考える。このことから、ペアでの活動に安心して取り組み、共に創意工夫をしながらオリジナルソングをつくることができたと感じていることや、曲想を意識して創意工夫していたことが分かる。学級全員が振り返りに「曲想に合ったオリジナルソングを創作できた・少しできた」と回答したことや(資料15)、最後の感想に「普段あまり話したことのない人も相談してつくっていかないといけないので、前よりは親しくなることができたかなと思いました。」とあり、友達との関係性を豊かにして創作表現を創意工夫する姿が全体として見られたと考える。

(5) 研究の成果と今後の課題

ア 研究の成果

- 音楽科学習において、生徒Aが安心して取り組める環境設定を行うことで、友達と自分の考えを伝え合い、曲想に沿って創意工夫しオリジナルソングを創作することができた。

イ 今後の課題

- 創作のしやすさを優先して、選択肢を多く用意したが、限られたリズムや構成の中での工夫になつたため、選択肢の提示の仕方について検討する必要がある。

<引用文献>

1) 岡 ひろみ他(2020) 『特別支援学校における音楽づくりの実践的研究-スリットドラムを使った実践を中心に-』 滋賀大学教育学部紀要No. 70 pp. 111-123

【添付資料】

○ つかむ段階の鑑賞におけるワークシート

○「白鳥の湖」で、数回繰り返される旋律の中から2つの部分を聴いて、感じとった曲想をキーワードを使って書こう。

部分	1の部分	2の部分
曲想		

【キーワード】 激しい なめらか 静か 明るい 悲しい たくましい 楽しい 力強い

○曲想と音楽を形づくっている要素の関わりを整理しよう！

曲想		要素		どうなっている？	
悲しい	感じがするの	速度	が	ゆっくりだ	から
	感じがするの		が		から
	感じがするの		が		から

○友達を考え

曲想		要素		どうなっている？	
	感じがするの		が		から
	感じがするの		が		から
	感じがするの		が		から

構成 A → B → A

A 反復	や	B 変化	などのまとまりのこと
---------	---	---------	------------

曲想についてどんな風感じたか、自分で考えることが難しい生徒のためのキーワード。

また、授業では表現の幅が広がるよう、キーワードに言葉を付け足して曲想を表現してみるよう促した。
〈例〉大荒れの海のように激しい

自分とは違う友達の考えをメモするための表。

○ いかす段階の創作活動における板書計画

「日本の音階を使って オリジナルソングをつくろう」

めあて
曲想に沿ったオリジナルソングを創ろう。

授業の流れ
●①創作の方法を知る
②リズムを確認する
③創作する
④振り返り

曲想	にしたい時	要素	どうする？
静かな感じ	にしたい時	旋律	音が続くようにする
元気な感じ	にしたい時	旋律	音が離れているものを使う
静かな感じ	にしたい時	リズム	長い音符が多いものを選ぶ
元気な感じ	にしたい時	リズム	短い音符が多いものを選ぶ

琉球音階

琉球音階の楽譜

民謡音階

民謡音階の楽譜

音を選択

← 1小節目 →

リズムを選択

音を選択

← 2小節目 →

リズムを選択

○リズムを下の選択肢から選ぶ！（同じリズムを使ってもよい）

構成の選択肢

① A → B → A → B ② A → A → B → B

③ A → B → B → A ④ A → B → A → C

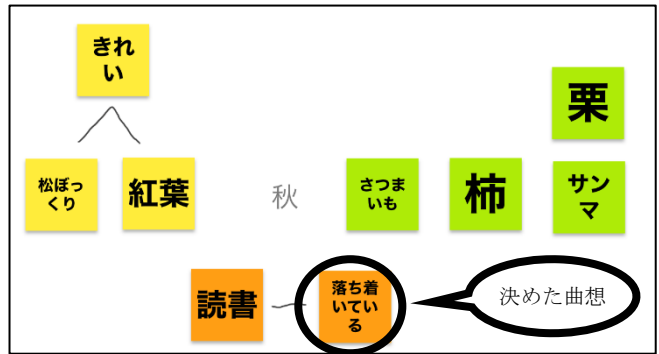
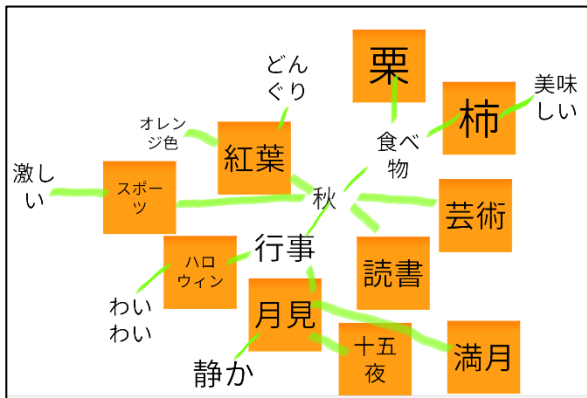
創作の手順

- ①自分の旋律を考える。
・選んだ音階から音を選択する
・リズムを選ぶ
- ②ペアで構成を相談する。
- ③ジャムボードに作った旋律を入力する。

構成を決める手順

- 構成の選択肢から選ぶ。
- バーチャルピアノを使って、試してみる。
- より曲想を表現できそうな構成がないか探してみる。
- 決定した構成で、ジャムボードに楽譜を作成する。

○ いかず段階において、曲想を決める際に使用した、ジャムボードの使い方を説明するために提示した例と、実際に生徒Aとペアの友達が入力したジャムボード



説明の際、例として提示した他のクラスの生徒のジャムボード

生徒Aとペアの友達が入力したジャムボード

○ 味わう段階における聴き合う活動の際に使用したワークシート

〈表〉

発表ワークシート
2年()組()番 氏名()

○自分たちのオリジナルソングの創意工夫点を書いてみよう。
②は2つ以上書きましょう。

① _____ という曲想を表現するために、
② _____

ところが工夫しました。

○他のペアの演奏を聴いたり、ジャムボードの楽譜を見たりして、曲想を表現するための創意工夫点を見つけよう。

1組目

① _____ という曲想を表現するために、
② _____

ところが工夫されているなど感じました。

2組目

① _____ という曲想を表現するために、
② _____

ところが工夫されているなど感じました。

創意工夫点を考えることが難しい際に、すぐに確認することができるよう、ワークシートの裏面に例を示した。

〈裏〉

②曲想を表現するために工夫したところの例

リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・短い音符を多く使っている。 ・長い音符を多く使っている。 ・はじめは長い音符を使って、後から短い音符を多く使っている。 ・同じリズムが続かないようにしている。
旋律 (音の選び方)	<ul style="list-style-type: none"> ・続く音を多く使っている。 ・離れている音を多く使っている。
音階	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球音階を使っている ・民謡音階を使っている
音高	<ul style="list-style-type: none"> ・高い音を使っている。 ・低い音を使っている。
速度	<ul style="list-style-type: none"> ・速い速度で演奏している。 ・ゆっくりな速度で演奏している。

発表の方法 (手順)

発表ペア	聴くペア
①はじめに、曲想を言う。 「私たちは()という曲想でオリジナルソングをつくりました。聞いて下さい。」	①発表ペア曲想をワークシートの①に書く。
②演奏する	②演奏を「リズム」「旋律」「音階」「音高」「速度」に着目して工夫されているところを探し、ワークシートの②に書く。
③聴くペアがワークシートに書いたことを聴く。	③書いたことを、発表ペアに伝える。
④自分たちがどこを工夫してつくったのか伝える。	④発表ペアの創意工夫点を聴く。
⑤交代	⑤交代

発表する側、聴く側のどちらの立場になっても、手順を手元で確認し、何をすればよいのかがすぐに分かるよう、ワークシートに可視化した。